

THE KITAKAMI TIMES

国際リニアコライダーの英語広報誌（日本語要約版）

DESY 研究者が候補地を視察

一関市 ネイト・ヒル

9月24日、世界の素粒子物理研究所の一つである DESY（ドイツ電子シンクロトロン）の研究者、クラウス・シンラム氏と東北大学・岩手大学の吉岡正和客員教授が、一関市と気仙沼市を視察しました。

初めに、一ノ関駅近くにある NEC ネットワークプロダクツの工場を訪れ、最先端技術によるものづくりを英語で説明してもらい、工場を見学しました。東日本大震災の被害を伝えるパネル写真や、過去の被災経験を活かした減災効果について説明があり、クラウス氏は、「人々の安全確保や地震被害から精密機器を守る対策等の理解を深めた。」と話しました。

次に、岩手県南技術研究センターを訪れ、産学官による共同研究・共同開発の概要や、一関高専の学生のものづくり活動について説明がありました。



NEC ネットワークプロダクツを視察する DESY クラウス氏ら

その後、気仙沼商港、木戸浦造船株式会社を視察しました。会社は震災により深刻な被害に遭いましたが、今年5月に新会社となるみらい造船を設立し、ILC を会社の長期ビジョンの中核に位置付けました。

最後に、クラウス氏は、「ILC の実現を見据え、多くの方が取り組んでおり、感銘を受けた。」と話しました。

ぜひ他の研究者にも候補地に来てもらい、北上サイトの環境や ILC 実現へ向けた取組を見て欲しいです。

仙台第一高校でILCを講演

岩手県 和山アマンダ



仙台第一高校での ILC 講演

仙台駅近くにある仙台第一高等学校は、文部科学省のスーパーサイエンスハイスクールに指定され、英語で科学の授業などを行っています。10月、私は ILC の講師を依頼され、英語で発表しました。

授業では、素粒子などを分かり易く説明するため、

先端加速器科学技術推進協議会（AAA）が提供するヒッグス君という ILC キャラクターなどを活用しながら、ヒッグス粒子の探索や標準理論の重要性を簡単に話しました。

また、ILC により真の国際社会が東北に生まれることを生徒の心に訴えました。外国人の受入れへ向けて、岩手、宮城、東北でどのような体制・準備が必要か、言葉の壁をどのように乗り越えるのか、「人類の偉大な冒険」にどう参画できるのか、みんなで考えていきたいと話しました。

生徒たちは、以前から ILC をよく知っていて、東北の未来に大変興味を持っているようでした。

私は、仙台第一高校の生徒たちのように、次世代が未来を担い、ILC に向けて準備ができると確信しています。

先端加速器科学技術推進シンポジウム 2015 in東北

奥州市 アンナ・トマス



山内正則 KEK 機構長の講演

10月17日、奥州市のZホールで「先端加速器科学技術推進シンポジウム 2015 in 東北」が開催されました。講師は、山内正則KEK機構長、山下了先端加速器科学技術推進協議会大型プロジェクト研究部会長・東京大学准教授と増田寛也日

本創成会議座長・前岩手県知事を招き、多くの中学生・高校生も含め、約800人が参加しました。

山内先生の講演では、「加速器で解き明かす4つの謎」をテーマに、素粒子物理学の謎やKEKがILC実現に向けて取り組んでいることを説明しました。

山下先生はより科学的な観点から、増田先生は地方創生の観点から、加速器の特徴と成果、ILCのこれまでの進展、最近の動向などを説明しました。

三人の講演では、日本は素粒子物理学で世界のトップレベルにあり、その一つの証拠として、今年の梶田隆章教授も含め、数多くのノーベル物理学賞を日本は輩出しているという点を強調していました。

ILCは子供たちの将来の夢であり、真に私たちの世代ではなく、次世代のためのプロジェクトです。

奥州市国際フェアに参加して

ILC サポート委員会
ディーン・ルーツラー

9月27日、奥州市で毎年開かれる国際フェア「アスピア祭り」が開催されました。祭りでは、ダンス、合唱、太鼓などの演奏に加えて、世界の食べ物も様々販売されました。

ILC サポート委員会のメンバーも様々活動し、遠藤ペルリー副委員長はフィリピン料理を、ストロエアンカ委員はルーマニア料理を作り、ビルルイス委員長は祭りの司会を務めました。ILCのブースも設け、ILC サポート委員のプライスケビン、実野トムソンマークとルーツラデーインがテクス・メクス風チリを売りました。

晴天にも恵まれ、数百人が来場。食べ物や催し物で楽しい時間を過ごし、大成功と思いました。



奥州市国際フェア「アスピア祭り」に参加した ILC サポート委員会

私たちはこの人気のあるイベントに参加し、地域の方々と、ILCと同様に、ILCがもたらす東北の更なる国際化について話すことができました。

外国人と日本人がイベント開催へ向けて一緒に取り組む姿は、私たちがこれから築き上げようとする国際社会そのものでしょう。



THE KITAKAMI TIMES ・ ILC の英語版広報誌 第3号

発行：岩手県国際リニアコライダー推進協議会

TEL: 019-624-5880 FAX: 019-654-1588

協力：岩手県、奥州市、一関市、ILC サポート委員会など

